

ビール醸造用ホップの株分け苗利用による増殖技術

ホップの採苗部位及び植付方法の違いと収量性

背景・目的

- 「ホップ」は、アサ科の多年生蔓植物で、雌株の毬花がビール醸造に用いられます。
- 県内では2016年からクラフトビールメーカーによって試験栽培されていますが、育苗方法についてはよく分かっていません。
- このため、「株分け苗の採苗部位」や「ポット育苗の有無」と「収量」との関係を検討しました。

成果の内容

- 株分け苗の採苗部位は、「主茎」、「地下茎」とも利用可能で、概ね100g/株の収量が得られました。
- 採苗後にポット育苗することで欠株をなくすことができました。

表 株分け部位、育苗の有無が生育に及ぼす影響

採苗部位	植付方法	植付日	地上部活着率 (%)	収量 (g/株)
主茎	直植	3月14日	75 ¹⁾	117 ± 55 ²⁾
地下茎			25	82 ± 3
主茎	ポット育苗	4月 2日	100	111 ± 24
地下茎	→定植 (鉢上げ 3月14日)		100	122 ± 31

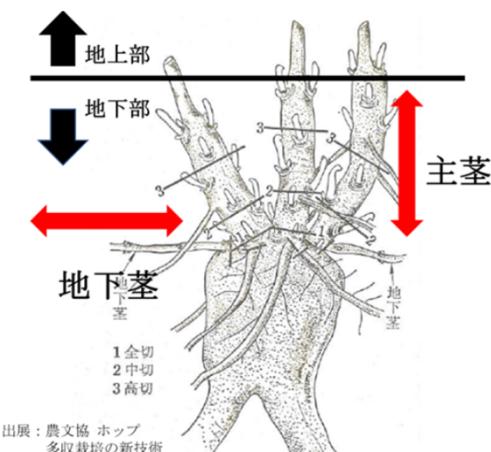
1) 各区8株

2) 地上部活着株の平均±SD

(参考) 東日本の標準的なホップの収量は、植付初年目100g/株程度である(養賢堂版 作物体系より)

成果の活用方法(又は期待される効果)

- 栽培株からの株分け苗の利用が可能となり、苗代等のコスト低減と生産性向上につながります。



図：ホップ栽培株の採苗部位



写真：ホップ株分け苗のポット育苗

■普及対象地域 県内全域

留意点

- 小林市野尻町で試験した結果です。地域の気象条件に合わせて育苗時期を調整します。

関連研究成果カード：令和元年度後期 番号44

関連事業名：宮崎県における「ホップ」栽培技術の確立（マーケット対応型）（県単）

研究期間：令和元年